

# 敷島小学校 学校関係者評価書

平成30年 2月 16日 (金)  
(敷島小学校) 学校関係者評価委員会作成

## 第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成30年 2月 16日 (金) 午後3時00～4時20分

会場：敷島小学校 校長室

参加者

(学校関係者評価委員)

学校評議員：小田切 道之，松土 仁郎，辻 英夫，平賀 文子，末木 康友

P T A代表：市川 遥来 (P T A会長) 三井 咲枝 (P T A副会長)

(学校側)

校長 河西 慶仁 教頭 竹野 貢造 教務主任 新藤 哲二

## I 学校側から提案された内容

学校側から、12月に実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」、「保護者アンケート」を基礎資料として分析した「自己評価書」に基づき、次の内容について提案があった。

(1) 学校教育目標及び学校経営方針について

(2) 自己評価について

① 全体評価

② 項目ごとの評価結果について (達成状況・改善策)

(ア) 学校教育目標・学校経営について

(イ) 学校運営について

(ウ) 学習指導について

(エ) 生徒指導について

(オ) 地域との連携について

(カ) 学校の特色に関して

(3) まとめ

## II 協議された主な内容

学校が取りまとめた自己評価書をもとに、本校の教育活動や学校運営の状況について、課題点が正しく把握されているか、改善策が適切であるか等について協議した。また、児童の様子、今日的な教育課題等について意見交換を行った。

### < 学校関係者評価書 >

## I 全体評価

- ・ 教職員の自己評価の結果から見ると、教育活動及び学校運営 (学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等) について、学校長のリーダーシップの下、年間を通して教職員が学校経営方針を理解し、日常の教育実践や校務分掌を実践してきていることがうかがえる。教職員が自覚と責任をもって職務に専念したととらえている。
- ・ 児童アンケート「学校は楽しいですか」及び保護者アンケート「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」に対する肯定的な回答が高く、敷島小の教育活動が児童やその保護者に良く理解されている。

## Ⅱ 特徴

- ・授業も参観させてもらったが、全体的に子供たちが落ち着いて生き生きと授業に取り組む姿が見られて安心した。
- ・アンケート結果に見られる保護者と学校との関わりについても評価できる。また、子供一人ひとりが家庭で大切に育てられていることもうかがえる。
- ・校長の経営方針，教育理念を全職員が共有し，教育活動が実践されていて，教育活動については概ね良好である。今後も教職員一人一人がより主体的に学校運営に参画していく必要がある。
- ・家庭と連携して基礎基本の習得，学習意欲の喚起，学習指導についての取組に力を入れている。児童がわかる楽しさを実感できるような授業を今後も推進する必要がある。
- ・子供と向き合う時間を確保するために，会議の精選，朝の時間の使い方など学校が努力している様子がわかる。

## Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・学校教育目標に関連する項目で「学校の楽しさ」を問う設問がある。全体的には高評価であり，不登校児童がない点も素晴らしい。その中で，ネガティブな回答をしている児童が若干みられる。自己評価書にあるように原因確認と丁寧な対応を組織的に推進してほしい。
- ・家庭レベルで生活習慣の素養を育てることは欠かせない。PTA活動を通した啓発も必要である
- ・PTAの自主的活動の推進，地域の教育資源の活用など，学校，家庭，地域が一体となり，PDCAサイクルを有効活用して取り組んでいただきたい。また，学校での取組が家庭にも理解されるよう，今後も適宜適切な情報発信を心がける必要がある。
- ・地域の公的教育機関として，授業参観や懇談会の定期的開催，諸行事への参加，交流や共同学習の実施，地域への物的開放（施設開放），機能の解放（教員の専門性を生かした講座，教科等に関わる講座）を図ることはもちろん，生涯学習の視点で，地域の人々や高齢者が学習した成果を学習支援といったことで，学校教育に生かすことができるよう努める必要がある。
- ・家庭との情報交換や教育方針の共有を図るとともに，学習や生活上の個別相談，あるいは家庭訪問等により問題への早期対応，早期解決を図る。そのためにも，専門家や教育委員会といった関係機関と連携していくことを大切にしたい。
- ・学校閉庁日は，働き方改革に資する取組であるが，保護者への適切な周知と職員不在による防犯対応に留意してほしい。

※特記事項      なし

記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員）      氏名：小田切 道之